

▽発信元・お問い合わせ先はこちら  
「人材ビジネスの発展を通じてヒトの成長を迫る」  
株式会社ヒューマンビジネス・コンサルティング  
TEL : 03-6909-8644/0120-973-644  
E mail:info@hb-consulting.jp

## 記者の目：請負→派遣→請負 非正規労働9年＝日野行介

米国発の経済危機を受け、国内のメーカーがまず手をつけたのが低賃金の非正規労働者の人員削減、いわゆる「派遣切り」だった。その結果、労働者は失業と同時に住宅も失い、多くの人々が、身近にある「貧困」に衝撃を受けた。私はこの半年間、大手企業を相手に闘う1人の派遣労働者の姿を追い続けた。そして、「派遣切り」のそもそもの原因は何なのか、責任の所在はどこにあるのかを考えた。

大手重機メーカー「三菱重工業」の非正規労働者、圓山(まるやま)浩典さん(46)は00年、同社の高砂製作所(兵庫県高砂市)で働き始めた。請負会社の社員という立場だった。だが「請負会社」といいながら、独自の設備も技術もない。メーカーに供給する非正規労働者を名目上抱えるだけの存在だ。後に問題となる「偽装請負」の状態だった。06年4月、本人が知らないまま「派遣労働者」に身分が変わった。そして3年間の派遣期限が切れる今年4月からは再び請負に戻される。会社側の都合に翻弄(ほんろう)され続けた9年間だった。

正社員と同じように、午前8時半から午後5時半まで働く。残業もある。妻と子ども2人、一家の生活を支えるため、まじめに働き続けてきたつもりだ。「なのに、なぜ正社員になれないのか」。思いは昨年11月、会社への直訴という形となって表れた。今年1月には、「使い捨ては許さない。安心して働きたい」と、正社員としての地位確認を求め提訴に踏み切った。

正社員になりたいと思うことは、高望みなのだろうか。むしろ、必要な労働力を不安定な非正規労働者として長期間とどめている方がおかしいのではないのか――。そんな圓山さんの思いは極めてまっとうだ。だが、多くのこうした人たちが職を失い、貧困に直面しているのが現実なのだ。

そもそも、会社側が非正規労働者の拡大を求める論理には、実態とかけ離れた「建前」が多い。その一つが「企業に縛られず自由に働ける」「多くの職場でキャリアを積める」などとされる労働者側のメリットだ。しかし実態は、失業と隣り合わせの不安定な雇用に加え、賃金も正社員よりはるかに少なく、メリットなどどこにも見当たらない。

また、派遣は「一時的・臨時的労働」であり、長期間同じ職場で働く「常用代替」にすることを禁止されている。これも実態とかけ離れた「建前」だ。圓山さんのように、請負から派遣、そして請負と、形式的に違法状態を解消することで「常用代替」として使い続けられる。責任も負わず安く働かせた揚げ句、使い捨てにしたメーカーが批判を集めるのは当然だろう。

メーカー側の言い分はどうか。漫画週刊誌「モーニング」(講談社)の人気漫画「社長 島耕作」で、大手家電メーカー社長の島が、メーカー経営者の意見を代弁している。島は「本当に責任を取るべきは派遣会社。政治が介入して早くセーフティーネットを作らなければ」と、メーカー批判に反論する。

派遣労働の現場取材してきた者として、この島の発言にはあきれざるばかりだ。派遣会社の実態が、メーカーに代わって人を集め、雇用者責任を名目だけ負うための「名ばかり雇用主」であることは明らかだ。実質的な雇用主であるメーカーが責任を逃れるための「汚れ役」とも言える。セーフティーネットについても同様だ。メーカー側が、賃金だけではなく社会保険や雇用保険などセーフティーネットの費用負担を減らし、利益を積み増してきた事実を直視していない。

今回の製造業の派遣切りの横行は偽装請負に端を発している。表向きは仕事を外部発注(請負)にしながら、実際には社員と変わらず指示・命令して使用する違法行為だ。06年ごろに相次いで発覚し、その結果、多くの人が派遣へと身分を替え、それが大量の派遣切りへとつながっていく。圓山さんの訴えに対して、三菱重工は「行政からの指導がないから偽装請負とは認識していない」と回答したという。摘発されていないから違法ではないという論法だが、偽装請負が違法だから問題なのではない。メーカーが本来負うべき使用者としての責任を逃れていることが問題なのだ。

今回の非正規労働者の削減で引責辞任した大手メーカーの経営者はいない。「自分の子どもが10年近く派遣として働かされ、解雇されたらどう思う

か」と経営者に問いたい。「国際競争力を維持するためには仕方ない」と答えるのだろうか。それとも「自分の力で正社員にできるから関係ない」と答えるのだろうか。(大阪社会部)

(2009年3月19日 毎日新聞)